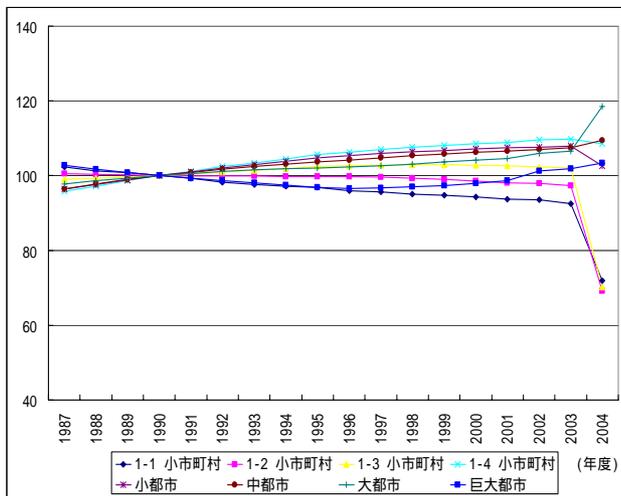


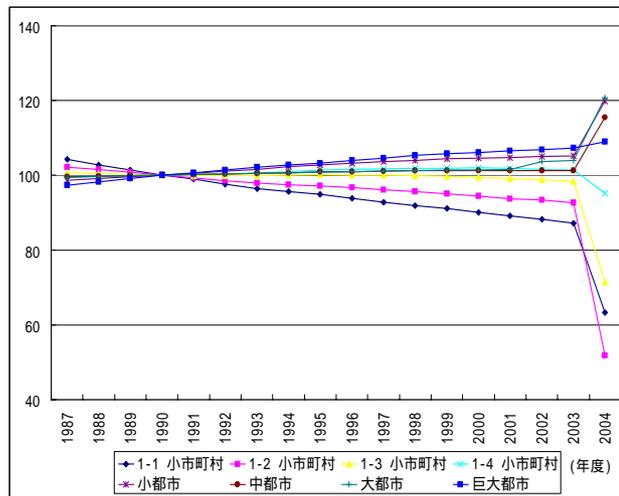
指標：都市規模別人口推移

平成の大合併により、三大都市圏・地方圏ともに5千人以下及び、5千人～1万人規模の市町村において、顕著な人口減少がみられ、その反面、結果として都市化が進んでいる。

三大都市圏



地方圏



1990年人口を100とした各年の人口

(出典)住民基本台帳より国土交通省国土計画局作成

(注)都市規模は平成2年住民基本台帳を基に以下の通り分類

1-1小市町村：～5千人 1-2小市町村：5千～1万人 1-3小市町村：1万～2万人 1-4小市町村：2万～5万人

小都市：5万～10万人 中都市：10万～30万人 大都市：30万人～(巨大都市を除く) 巨大都市：東京23区及び政令指定都市

(注)平成の大合併...政府による行財政面でへの支援などが2005年3月31日までに合併が完了した場合に行うと定められた事から、2003年から2005年にかけて合併の動きはピークを迎えた。